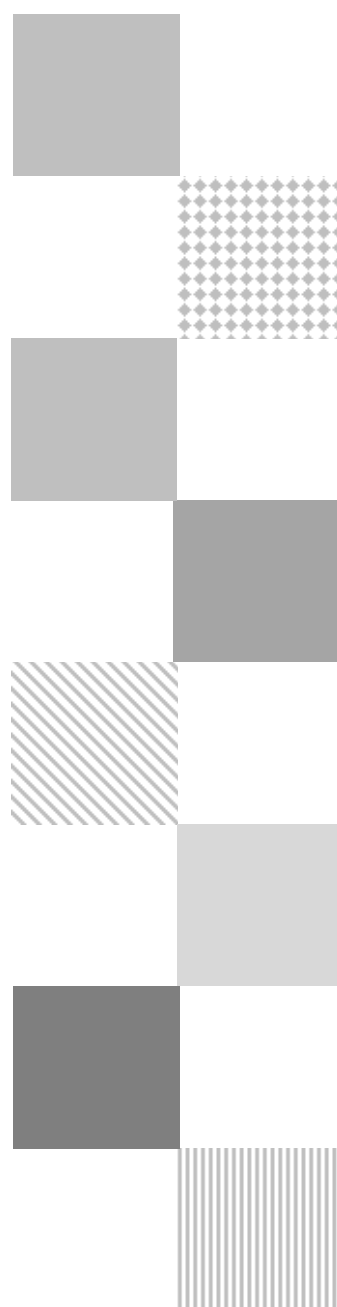


III

指導案



体を動かそう ～ウエスト筋肉番付～

京都市立西総合支援学校 小学部

活動グループ： 4～6年ユニット（男子6名、女子2名、計8名）

授業者： ◎吉本早苗・井上陽子・浪崎まどか（指導案作成者◎）

授業期間： 10月29日～3月6日 全17回 17時間

本 時： 12月2日 10：30～11：15（第3校時） 6時間目／17単位時間

授業場所： 体育館

ユニット参加児童の障害

■知的障害（ 8名 内、自閉症 7名 ）

□知的障害・肢体不自由重複障害（ ）

□その他（ ）

1. 本ユニットで取り扱う目標（3ケース抽出）

児童	短期目標（○：ユニットの中心課題） （・：取り扱う関連課題）	本ユニットで取り扱う行動目標
A	○自分で縄を回して前跳びを3回跳ぶ	・自分で縄を回して前跳びを3回跳ぶ
B	○揺れている大縄を両足で10回以上連続跳びをする ○手本を真似て、腕を伸ばす、腕を回す、前屈する、屈伸するなどの動きをする	・揺れている大縄を両足で10回以上連続跳びをする ・タブレット端末に映し出された手本を真似て、腕を伸ばす、腕を回す、前屈する、屈伸するなどの動きをする
C	○小波の大縄を足をそろえて1回跳ぶ ○指導者の言葉かけで運動場を2周走る	・小波の大縄を足をそろえて1回跳ぶ ・体育館の四隅に置かれたV O C Aやベルを順に押しながら5分間走る

2. ユニットについて

（1）児童について

A：本児は、体を動かして遊ぶ活動が大好きである。これまで、補助輪を外した自転車で10m程度進んだり、インラインスケートを履いて周回コースを滑ったりすることができるようになっている。

現在、好きだったり得意意識を持ったりしている活動には意欲的に取り組むが、難しいと感じた活動の時には走り回ったり跳びはねたりすることがある。しかし、指導者から「頑張れ！」「できたね！」「すごい！」のような言葉かけを受けたり、好きな指導者に会いに行くことを楽しみにしたりして、苦手なことに挑戦し、達成できることが増えている。「危ない、おしまい」と言って避けていた自転車では、後ろから支え、それを徐々に弱くしていくことで、30mほどの距離をこいで進むようになり、曲がることもできるようになった。机上学習でも、新規の課題であったお金の学

習では離席をしたり「おしまい」と言ったりしていたが、10円硬貨と100円硬貨の区別がつくようになると、指導者が言った値段に応じて硬貨を出すことができるようになった。このように、指導者の支援を受けながら取り組むことで、様々なことに向かう姿を引き出し、本児のできることを増やしていきたい。本児は現在、揺れている大縄を20回以上連続跳びすることもでき、そのまま回転させても10回程度跳ぶことができている。この活動を、一人用の縄を使って縄跳びに取り組むことへ発展させていきたいと考えた。一人での縄跳びは「回す」「跳ぶ」の2つの動作で構成されており、難易度の高い活動であるが、後ろ跳びやあや跳びのように跳び方の種類を増やしていくことができ、一人で継続して取り組むことができる活動である。縄跳びは、本児が現在自信を持って取り組むことができる活動であり、達成の度合いが具体的な回数でわかりやすい。一人で縄跳びができるようになることで、好きな指導者から褒められる経験も増え、本児はますます自信を高めていくことができると考えられる。本児が自信を持ってできることを増やし、自分からも活動に向かっていく姿を引き出していきたい。

B：本児は、ボール遊びやブランコ遊びなど、遊具で遊ぶことが大好きである。インラインスケートで周回コースを滑ったり、スケートボードを自分で漕いで進んだりするなど、平衡感覚が要求される活動も得意である。ランニングのように、持久力を必要としたり、準備体操など人の動きに合わせたりする活動は苦手で、立ち止まったり、その場を離れようとしたりすることがあるが、指導者が隣で走ったり、近くから手本を示したりするように、一対一で取り組めば続けられるものもある。

人の動きに合わせる活動は苦手だが、DVDなどでダンスをしている映像を見ると、体を左右に揺らしたり、少し真似たりする姿がある。指導者と一緒にいろいろな動きに挑戦することで、体を動かす楽しさに気付く、道具がなくても自分で体を動かしてみようという意欲を育てたい。実際に体を動かすことによって、遠くへボールを投げたり、少し難しいダンスもできるようになったりするなど、できる動きの幅も広がっていくと考えられる。

本児はこれまでに、両足をそろえて大縄を跳び越えたり、揺れている大縄を指導者と対面した状態で手をつないで跳んだりすることができるようになってきている。大縄跳びは本児にとって楽しめる活動になりつつあり、跳べる回数を増やしたり回転している大縄で跳んだりできるようになることで、本児が意欲を持って取り組める活動がさらに楽しめるようになると考えられる。楽しみながらできることを増やし、様々なことに挑戦していく気持ちを育てていきたい。

C：本児は、DVD等、自分で機器を操作して取り組むことが大好きで、DVDの手本を見ながらダンスや体操をすることを毎日の楽しみにしており、運動しようとする意欲は高い。高度の肥満傾向であり、跳躍したり長時間走ったりすることが難しい状態であったが、跳ぶ高さや走る時間を少しずつ伸ばしていくことで、10cm程度のミニハードルを両足で跳び越えたり、体育館を止まらずに2周走ったりすることができるようになった。特に、跳躍力の向上を生かし、学校祭ではミニハードルを4回連続で跳び越える姿を披露した。本児にとってジャンプは自信のある活動の一つとなってきた。この成果を生かし、さらに発展させることができる活動として、大縄跳びを考えた。まずは、小さな波のように動く縄を跳ぶことで「こんなことができた」「これもやってみよう」という思いを持ち、運動への意欲をさらに高めていけると考えられる。

ランニングでは、指導者が後方から軽く背中を押したり「かっこいい」と言葉かけをしたりする支援で、速度に変化はあるが1～2分間走り続けることができるようになってきている。本児は音の出る機器を使うことを好むので、周回コースのポイントにいくつか配置したVOCAやプッシュベルを押しながら走る活動を設定すれば「押したい」という気持ちから、自分からその機器まで走

る姿を引き出せると考える。楽しみを取り入れながら走ることに取り組み、走る機会を増やすことで、肥満の進行を抑えることにもつなげていきたい。

（２）ユニットの設定

本ユニットは、器具や器械を使い、歩いたり走ったりする等、身体をダイナミックに動かすことをねらいとした児童で構成されている。児童は、指導者の伴走で周回コースを走ったり、向かい合って大縄を跳んだりする活動に意欲的に参加することができている。しかし、日常的に運動量の少ない児童がほとんどである。身体のような部位を使って体を動かすことで、体力を高めたり、いろいろな動きに挑戦したりできるようになってほしい。これまでの学習で、全体での準備体操、ランニング、大縄跳びに加え、巧技台の昇降、ウレタンブロックの飛び石を跳び越えるなど、一人ひとりの児童の目標に応じた運動を含むサーキット運動を行なってきた。サーキット運動では、児童にとって難しい課題も含まれており、一人ひとりに長い指導時間が必要であった。一人の児童に指導者が付きっきりの状態が続く、サーキット運動をしていない児童にとっては待ち時間となり、それが離席を生じさせる要因の一つとなっていた。そこで、待ち時間を少なくし、児童一人ひとりの活動量を増やすために、タブレット端末で撮影した動画を見ながら簡単な運動に取り組む「スティックゾーン」、それぞれの児童のねらいに応じた運動を指導者と個別に取り組む「ファイトゾーン」の２つに分けて、同時に取り組む活動を設定した。

本ユニットでは、まず全体でのランニングと大縄跳びに取り組む。ランニングでは、体育館の周回コースに沿って走ることができるように、四隅にＶＯＣＡやプッシュベルを置き、それらを押しながら走ることにした。各ボタンには、児童が好みそうな正解音やファンファーレなどがあらかじめ録音しており、ボタンを押すことを楽しみに走り続けられると考えられる。大縄跳びでは、児童が目標とする跳び方がそれぞれ異なるため、順番で個別に取り組むことで確実に跳べるようになってほしい。

次に「スティックゾーン」「ファイトゾーン」の活動に取り組む。「スティックゾーン」では、タブレット端末に録画した動画を見ながら、ペットボトルを使ったダンベル体操、踏み台昇降の運動を行う。児童が一人でも取り組みやすいように、ダンベル体操では左右対称の上下運動を取り入れている。踏み台昇降では、指導者がゆっくり踏み台を昇り降りしている。どちらの運動でも「１、２、３…」と数を数えながら手本を示している。この２つの運動をサーキット運動のように巡回し、運動量を確保したい。「ファイトゾーン」は、児童によって活動が異なり「跳び箱グループ」（２名）、「体操グループ」（１名）、「自分で縄跳びグループ」（１名）、「体を大きく動かすグループ」（４名）の４グループに分けて、それぞれが課題とする運動に重点的に取り組むことにした。

「スティックゾーン」「ファイトゾーン」を６分ごとに交代し、児童が体を動かしている時間を増やして、目標となる運動に集中して向かえるようにしていきたい。

（３）状況づくりと支援について

＜状況づくり＞

○挨拶場面

- ・「スティックゾーン」「ファイトゾーン」の活動に入る際、同じグループの児童で動きやすいように、あらかじめグループごとに分かれて座る。
- ・椅子には児童の顔写真を貼り、どこに座るかがわかるようにしておく。

○ランニング

- ・楽しみながら走り続けられるように、周回コースの四隅にＶＯＣＡやプッシュベルを置いたポイン

トを設置する。(C)

- ・「いつまで走るか」をわかりやすく示すために、大型テレビにタイマーを表示し、終了したら音が鳴るようにする。タイマーは、円形で赤色部分が減っていくものとする。

○大縄跳び

- ・跳ぶ順番がわかるように、児童の顔写真をホワイトボードに縦に並べて貼る。(B、C)
- ・縄が見えやすいように、床の色と同化しにくい黄色の縄を使う。(B、C)

○ストイック&ファイトゾーン

- ・児童が一人で運動に取り組めるように、指導者が手本を示す動画を録画したタブレット端末を複数台用意する。
- ・タブレット端末の操作時に手本以外の画像が見えないようにディスプレイを設定しておく。
- ・活動の交代を知らせるために、大型テレビにタイマーを表示し、終了したら音になるようにする。タイマーは、円形で赤色部分が減っていくものとする。
- ・ストイックゾーンの休憩スペースとして椅子を用意する。
- ・タブレット端末や踏み台を他の児童が使っている時に待つことができるように、ミニトランポリンを跳ぶ、体育館の端から端までV O C Aを押しながら走る等の活動を用意する。
- ・跳び箱に手を付く場所がわかるように、手形を貼っておく。
- ・一人で取り組みやすいように、左右対称の動きの体操を取り入れる。(B)
- ・縄跳びへの意欲を高めるために、児童が好む指導者による手本を録画した動画を用意する。(A)
- ・跳びやすいように、縄にラップの芯を通しておく。(A)
- ・ボール投げの活動に集中して取り組めるように、ボールにマジックテープを付け、マジックテープがくっつく布を使用し、ボールが落ちないようにする。(C)

<支援>

○ランニング

- ・走りながらボタンを押すモデルを指導者が示す。(B、C)
- ・止まりそうな児童には、後ろからの言葉かけ、背中を軽く押すなどの支援をする。(C)

○大縄跳び

- ・リズムよく跳びやすいように、一定のリズムで縄を揺らすようにする。(B、C)
- ・必要に応じて指導者が手をつないで跳び、両足で連続跳びができるようになってきたら、手を離す。(B)
- ・跳ぶタイミングがわかるように「せーの」と合図をする。(C)

○ストイック&ファイトゾーン

- ・タブレット端末の動画に合わせて指導者が「1、2」と数える言葉かけをして、ダンベルや足を動かすリズムを伝える。
- ・跳び箱や縄跳びの跳び方、ボールを投げる方向をモデルで示す。
- ・動画に注目しながら取り組めるように、必要に応じてタブレット端末の動画を指差す。(A、B)
- ・目標とする回数を伝え、児童が跳ぶのに合わせて回数を数える。(A)

3. 本ユニットの実施計画

(1) 授業実施計画

全17単位時間（本時第6時間目）

学習項目	内 容	状況作り及び支援の要点	時間配当
みんなで運動しよう	<p>○ランニングをする。</p> <p>○大縄跳びをする。</p> <p>○タブレット端末の動画を大型テレビに映して、順番にペットボトルダンベル、踏み台昇降に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周回コースにカラーコーンを置き、走るコースを示す。 ・ 止まりそうになっている児童には、軽く背中を押したり「走るよ」と言葉かけをしたりする。 ・ 順番を顔写真で示す。 ・ 必要に応じて指導者が手をつないで跳ぶ。 ・ タブレット端末の動画に合わせて指導者が「1、2」と数える言葉かけをして、ダンベルや足を動かすリズムを伝える。 	3 時間
一人でも運動しよう	<p>○ランニングをする。</p> <p>○大縄跳びをする。</p> <p>○スティックゾーンとファイトゾーンに分かれて運動する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周回コースの四隅にV O C Aやプッシュベルを置き、それらを押しながら走るポイントを設置する。 ・ 走る時間を大型テレビにタイマーで表示する。 ・ 跳ぶ順番がわかるように、児童の顔写真をホワイトボードに縦に貼る。 ・ タブレット端末の操作時に手本以外の画像が見えないように、運動の動画をアルバムにまとめておく。 ・ 活動の交代を知らせるために、体育館の中心にタイマーをセットしたタブレット端末を置く。 ・ 跳び箱に手を付く場所がわかるように、手形を貼っておく。 ・ 跳びやすいように、縄にラップの芯を通しておく。（A） ・ 一人で取り組みやすいように、左右対称の動きの体操を取り入れる。（B） ・ ボール投げの活動に集中して取り組めるように、ボールにマジックテープを付け、マジックテープがくっつく布を使用し、ボールが落ちないようにする。（C） 	1 4 時間

(2) 指導計画 (個別)

児童	行動目標 ※本時	できる状況づくりと支援
A	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で縄を回して前跳びを3回跳ぶ ①指導者のかけ声に合わせて、リズムよくその場跳びを5回する (2時間) ②片手に縄を持ち、縄を回して5回跳ぶ (2時間) ③自分で縄を回して1回以上跳ぶ (※2時間目/7時間) ④自分で縄を回して前跳びを3回跳ぶ (6時間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者が対面して手拍子をしながらかけ声をつける。 ・跳びやすいように、縄にラップの芯を通して置く。 ・意欲を高めるために、指導者によるモデルを録画した動画を手本にする。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・揺れている大縄を両足で10回以上連続跳びをする ①指導者と手をつなぎ、揺れている大縄を両足で5回以上連続跳びをする (2時間) ②指導者と手をつなぎ、揺れている大縄を両足で2回跳んだ後、手を離して3回跳ぶ (3時間) ③指導者の手本を見て、揺れている大縄を両足で5回以上連続跳びをする (※1時間目/5時間) ④揺れている大縄を両足で10回以上連続跳びをする (7時間) ・タブレット端末に映し出された手本を真似て、腕を伸ばす、腕を回す、前屈する、屈伸するなどの動きをする ①タブレット端末に映し出された手本と指導者の手本を見て、腕を伸ばす、腕を回す、前屈するなどの動きをする (5時間) ②タブレット端末に映し出された手本を指導者が指差すと、腕を伸ばす、腕を回す、前屈する、屈伸するなどの動きをする (※1時間目/10時間) ③タブレット端末に映し出された手本を見て、腕を伸ばす、腕を回す、前屈する、屈伸するなどの動きをする (2時間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者が向かい合って両手をつなぎ「びよん」と言葉かけをしながら跳ぶ。 ・つないだ手を片手にし、次第に両手を離す。 ・必要に応じて指導者が手をつないで跳び、両足で連続跳びができるようになってきたら、手を離す。 ・指導者が向かい合って両足跳びのモデルを示す。 ・指導者が隣に立ち、同じ動きをしながら「伸ばす」「回す」などの言葉かけをする。 ・指導者がタブレット端末の隣に立ち、画面を指差し、必要に応じて言葉かけをする。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・小波の大縄を足をそろえて1回跳ぶ ①張ってある大縄を足をそろえて1回跳ぶ (1時間) ②蛇状に動いている大縄を足をそろえて1回跳ぶ (2時間) ③小波の大縄を足をそろえて1回跳ぶ (※3時間目/14時間) ・体育館の四隅に置かれたVOCAやベルを順に押しながら5分間走る ①体育館の四隅に置かれたVOCAやベルを順に押しながら2分間走る (※6時間目/6時間) ②体育館の四隅に置かれたVOCAやベルを順に押しながら5分間走る (11時間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・跳躍を引き出すために、縄を30cm程度の高さに張る。 ・跳ぶタイミングがわかるように「せーの」と言葉かけをする。 ・リズムよく跳びやすいように、一定のリズムで縄を揺らすようにする。 ・跳ぶタイミングがわかるように「せーの」と合図をする。 ・「いつまで走るか」をわかりやすく示すために、大型テレビにタイマーを表示する。 ・止まりそうな時は、後ろからの言葉かけ、背中を軽く押すなどの支援をする。

4. 本時の授業について

(1) 本時の展開

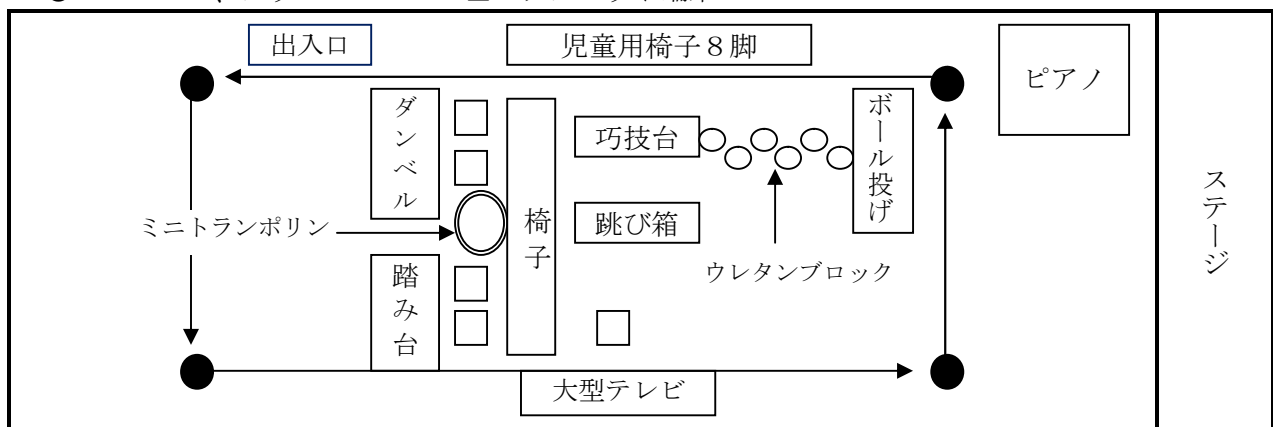
学習内容（項目）	児童の活動	指導者の活動／支援
はじめの挨拶	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに椅子に座る。 指導者の言葉かけに続いて「はじめます」と言う。 	
ランニング	<ul style="list-style-type: none"> 体育館の四隅に置かれたV O C Aやベルを押しながら2分間走る。(C) 	<ul style="list-style-type: none"> 「いつまで走るか」をわかりやすく示すために、大型テレビにタイマーを表示し、終了したら音になるようにする。 走りながらボタンを押すモデルを示す。(C) 止まりそうな時は、後ろからの言葉かけ、背中を軽く押すなどの支援をする。(C)
大縄跳び	<ul style="list-style-type: none"> 顔写真の順番カードを見たり、指導者に名前を呼ばれたりして椅子から立ち、それぞれの跳び方で跳ぶ。 指導者の手本を見て、揺れている大縄を5回以上連続跳びをする。(B) 小波の大縄を足をそろえて1回跳ぶ。(C) 	<ul style="list-style-type: none"> 跳ぶ順番がわかるように、児童の顔写真をホワイトボードに縦に並べて貼る。(B、C) 必要に応じて指導者が手をつないで跳び、両足で連続跳びができるようになってきたら、手を離す。(B) 跳ぶタイミングがわかるように「せーの」と合図をする。(C)
ストイック&ファイトゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 活動ごとのグループに分かれて、ストイックゾーンとファイトゾーンの運動を約6分間で交代する。 自分で縄を回して1回以上跳ぶ。(A) タブレット端末に映し出された手本を指導者が指差すと、腕を伸ばす、腕を回す、前屈する、屈伸するなどの動きをする。(B) 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が一人で運動に取り組めるように、指導者が手本を示す動画を録画したタブレット端末を複数用意する。 活動の交代を知らせるために、タイマーをセットしたタブレット端末を大型テレビに接続する。 跳びやすいように、縄にラップの芯を通しておく。(A) 縄跳びへの意欲を高めるために、児童が好む指導者によるモデルを録画した動画を手本にする。(A) 目標とする回数を伝え、児童が跳ぶのに合わせて回数を数える。(A) 動画に注目しながら取り組めるように、必要に応じてタブレット端末の動画を指差す。(A、B) 一人で取り組みやすいように、左右対称の動きの体操を取り入れる。(B)
終わりの挨拶	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに椅子に座る。 指導者の言葉かけに続いて「おわります」と言う。 	

(2) 本時の評価

A	・自分で縄を回して1回以上跳ぶことができたか
B	・指導者の手本を見て、揺れている大縄を両足で5回以上連続跳びをすることができたか ・タブレット端末に映し出された手本を指導者が指差すと、腕を伸ばす、腕を回す、前屈する、屈伸するなどの動きをすることができたか
C	・小波の大縄を足をそろえて1回跳ぶことができたか ・体育館の四隅に置かれたVOCAやベルを順に押しながら2分間走ることができたか

5. 配置図

●…VOCA、プッシュベル □…タブレット端末



6. 授業の評価

(自：自己評価 他：他者評価 A：適切 B：どちらかといえば適切 C：どちらかといえば不適切 D：不適切)

授業評価の観点	自	他	備 考
適切なできる状況づくりがなされていたか			
・教材はどうだったか			
・場の構造化、物品の配置はどうか			
・支援者の配置や役割分担はどうか			
支援のあり方はどうだったか			
・支援者の話しかけや指示はどうだったか			
・教材の提示の仕方やモデルの示し方はどうだったか			
・子どもの様子の把握とそれに対する対応はどうだったか			
その他、授業者設定項目			
・タブレット端末を見て一人で運動することができていたか			

力を合わせて目的地へいこう ～ 修学旅行事前学習～

京都市立西総合支援学校 中学部

活動グループ： 中学部 3 年ユニット（男子 3 名，女子 2 名，計 5 名）

授 業 者： 野口 健太◎ 山本 千夏 （指導案作成者◎）

授 業 期 間： 5 月 2 8 日～6 月 2 7 日 全 1 1 回 2 2 時間

本 時： 6 月 6 日 1 0：4 0～1 1：4 0 6 時間目／2 2 時間

授 業 場 所： 図工室、廊下

ユニット参加児童生徒の障害

■知的障害 （ 5 名 内，自閉症 3 名 ）

□知的障害・肢体不自由重複障害 （ ）

□その他 （ ）

1. 本ユニットで取り扱う目標（3 ケース抽出）

児童 生徒	短期目標 （○：ユニットの中心課題） （・：取り扱う関連課題）	本ユニットで取り扱う行動目標
A	○事前にカードで料金を知らせると，自分で切符を買う	・カードを見て，模型の券売機の正しい料金ボタンを押す
B	○目的地のバス停が近づくと降車ボタンを押す	・ふれあいの里に近づいていく市バスからの景色の映像を見て，降車ボタンを押す
C	○自分の役割と友達の役割を理解して，自分の役割を果たす	・自分の役割を知り，友達が活動する場面では座って待つ

2. ユニットについて

(1) 児童生徒について

A： 本生徒は、現在下校時のみ部分自主通学を行っており、歩道を安全に歩くことや、信号を守って横断歩道を渡ることができる。また、市バスの利用時には、降車時に自分で福祉乗車証を提示したり、目的地が近づくと降車ボタンを押したりすることもできる。指導者の指さしや言葉かけの支援を受けると、券売機で切符を買うこともできる。また、毎週月曜日には母親と近くの薬局に買い物に行き、金額に応じて千円札や小銭を選んで支払いをしている。このように、金種の理解、公共交通機関の基本的な利用スキルがあるので、今後経験を積むことにより、自分で目的地までの切符を購入して、そこに向かうことができるようになっていくと考える。

できることを生かして活動場を広げていく際に、場面が変わったり、経験が少ない活動をしたりすると、緊張して消極的になることがある。普段よく使う慣れた駅でなら、指導者の見守りのもとで切符を買うこともできるが、不慣れた駅では「えー。わからん。」と言って、手が止まってしまうことがある。初めていく場所や慣れない環境でも、自信を持って力を発揮してほしい。

2年生の時に行った「生き方探求チャレンジ体験」では手順書を使って初めての作業に取り組んだ。最初是指導者に確認しながら作業を進めていたが、慣れてくると、分からなくなった時には自分で手順書を確認して作業を進めていくことができた。夕方までの長時間の作業に2日間取り組み、受け入れ先の職員からも褒められた。そのことが本人にとって嬉しかったようで、振り返り学習の時に活動の写真を見て、自分の頑張りを大きな声で発表する事ができた。

手順書や支援グッズを使用し、環境が変わっても自分の力が発揮できるという経験をしたり、褒められたりする成功体験を多く積むことで、自信を持っていろいろな場面で力を発揮できると考える。そして、将来的には、不慣れた活動にもチャレンジしようとしたり、ひとりで利用できる公共交通機関を増やしたりして、自信を持ってより広い範囲の地域で活動できるようにつなげていきたい。

B： 本生徒は、日常での指導者の言葉かけをほぼ理解しており、行動に移すことができる。積極的に自分から指導者のお手伝いをすることも多く、クラスの友達のクッションを運んだり、友達がせき込んだ時には指導者に知らせてくれたりと、周りの状況を見てやさしい気持ちで行動することができている。

自分で判断して行動する場面を広げていく際に、自信がない時には、指導者の顔を見て自分の行動を確認する場面も見られる。学年ライフやユニット学習で市バスを利用する学習において、1年生の時は、教室でのシュミレーションで降りるバス停の名前を聞いて降車ボタンを押すことができた。実際バスに乗った時にアナウンスを聞いて鞆を背負い降車準備をしたが、降車ボタンを押すことができなかったのも、取り組みを積み重ねると、2年生ではアナウンスを聞き、指導者の顔を見て確認してからボタンを押すことができるようになってきた。取組を重ねることで少しずつ自信を深め自分から行動できるようになってきた。

また本生徒は、できたことや頑張ったことに対して、周りから褒めてもらいたいという気持ちを持ちながら、クラスや学部での役割に対して責任感を持って意欲的に取り組んでおり、指導者の褒め言葉や励ましの言葉を聞いてさらに前向きに取り組もうとする。そこで、「降車ボタンを押す」ことをグループの中での役割として設定し、できたことを褒めることにより、責任感を持ってボタンを押すことができるのではないかと考えた。グループの中での役割を担い、力を発揮することで、友達や指導者から褒められる体験を積むことにより、自分に対する自信を高めてほしいと考える。

C： 本生徒は大変人懐っこく、誰にでも自分から積極的に話しかけている。周囲の人や出来事に常に関心を持ち、お世話をしようとする。役割を担うことに関しても意欲的で、笑顔で自分の仕事に取り組んでいる。

これまでの学習の中で、自分の役割が終わると友達の仕事もしたくなったり、人と関わりたい思いが強いために活動中でも指導者や友達に話しかけたりしたときは「この仕事は〇〇さんのお仕事だから、座って応援して下さいね」と伝えたり、友達の活動を見守ることも大切であることを伝えたりしてきた。すると、友達の様子を見て「〇〇さんががんばったはるな一。」と話したり、自分の順番ではない時に「私、座って応援するわ!」と言ったりするようになってきた。また、本生徒が友達の様子を見守れていることに対して褒めることを続けてきた結果、徐々に友達の活動を自分から「見守る」場面も見られるようになってきている。

このような姿が見られることから、自分の役割と友達の役割を認識して、友達が頑張っているときはその姿を見て喜び、友達の良いところを見つけてほしいと考える。また、そういった経験を重ねることで協力して物事に取り組むことの良さを感じて、より豊かに人とのかかわって生活していく姿を目指していきたい。

（２）ユニットの設定

本ユニットは中学部３年の５名で構成しており、「友達と関わり合って活動する」という共通した目標がある。さらに生徒一人一人のねらいには、「公共交通機関の利用」「交通ルール」「役割活動」などが挙がってくる。３年生は７月初旬に名古屋に修学旅行に行く。２日目には、グループに分かれて活動する時間があり、その事前学習に取り組む中で生徒たちが、体験学習を通じて自分たちで目的を達成したという達成感を感じてほしい。修学旅行では、それぞれの生徒が「できる」ことを活かして、仲間と一緒に楽しい体験を積んでほしい。

今までも学年ユニットでの校外学習や宿泊学習では、それぞれの得意なことで役割を担い、公共交通機関を利用したり、友達と一緒にさまざまな体験学習に挑戦したりしてきた。その結果、阪急や地下鉄などのよく利用する電車、市バスの利用スキルや、友達とペースを合わせて移動する力、友達と協力して行動する力が伸びてきている。

本ユニットでは、生徒たちそれぞれの「できる」ことを活かし、地下鉄や市バスといった公共交通機関を利用して、名古屋駅から名古屋城まで協力してたどり着くことをねらいとした。新たな場所でも公共交通機関を利用したり、役割を担ったりして自分たちの持っている力を発揮してほしい。その結果、「自分たちで成し遂げた」という達成感を感じて、自信を深めてほしいと考えた。

修学旅行先の名古屋は、初めて訪れる生徒も多く、名古屋の市バス、地下鉄も初体験の生徒がほとんどである。そこでまず、目的地を西総合支援学校に設定し、慣れている京都の地下鉄や阪急、市バスを利用して、６月に校外学習で訪れる平安神宮（地下鉄東山駅）から帰ってくるという事前学習を設定した。まずは、地下鉄東山駅から西総合支援学校まで戻ってくるシュミレーションを校内で行う。場面としては、①地下鉄の改札で福祉乗車証を提示（Cは療育手帳を提示して切符を購入）、②アナウンスを聞いて地下鉄「烏丸御池」で降車、③地下鉄「烏丸御池」の駅構内を移動して地下鉄京都線に乗り換え、④アナウンスを聞いて地下鉄「四条」で降車、⑤地下鉄のホームから阪急の切符売り場まで移動、⑥阪急の切符を購入、⑦アナウンスを聞いて阪急「桂」で降車、⑧市バス「ふれあいの里」のアナウンスを聞いて降車ボタンを押す、という８つの活動を設定する。

事前学習では、いつどこに行って何をするのかを知り見通しが持てるようにしていくことと、初めての取組について事前に体験することで不安をなくし、期待を持てるようにしていくこと、また、事前に

学習したことと実際の体験が結びつくことが必要である。そこでAには、一人で切符を購入するためのカードを事前に用意しておく。Aは経験を積んだり、繰り返し練習したりすることで、自信を持って行動する事ができる。まずは学校でカードを見て切符を買う練習を積むことで、不慣れな駅でもカードを頼りに切符を買うというねらいにせまりたい。券売機はタブレット端末のアプリ「KeyNote」を使用して、購入する手順の操作ごとに○と×を表示して即時評価をする。次に、地下鉄のアナウンスを聞いて降車する判断をすることはCの役割とする。ここでは、降りる駅名をタブレット端末のアプリ「ロイロノート」を使用して、音声で確認する。Cはタブレット端末に興味があり、音声を繰り返し確認する事もできるので、目的地のアナウンスを聞いてみんなに降りるタイミングを伝えてほしいと考える。駅構内での移動シュミレーションの場面では、誘導サインである矢印や看板に関しては本物に近いデザインの模型を使うことにより、事前学習と実際の場面をリンクさせた学習を行いたい。市バスの降車ボタンを押すことはBの役割とする。この場面では動画を見ながら、『目的地である「ふれあいの里」のひとつ前のバス停を過ぎた場所で、降車ボタンを押す』というシュミレーションを行う。Bには、活動の前に「ボタンを押すのは君の役割ですよ」ということを伝えておく。このような口頭での指示と、視覚的にわかりやすい動画の提示という支援をすることで、自信を持って降車ボタンを押す姿を目指したいと考える。それぞれの活動場面ごとの役割は、進行表に顔写真を貼ることで視覚的に提示しておき、指導者が誰の役割場面なのかを強調して授業を進めていくことで、Bの友達の活動を見守る姿を目指したいと考える

シュミレーションと、実際の体験が結びつくように、使用した手順書やタブレット端末は当日も持参して使用する。それぞれの支援グッズを使って、指導者の助けを借りずに、目的地まで到着することによって、自分に対する自信を深め、仲間と協力して成し遂げたという経験を積んでほしい。そして、友達と関わり合って活動する楽しさを感じてほしいと考えている。

（３）状況づくりと支援について

○状況作りについて

- 自分がどの場面でのどのような活動をするのか分かりやすく、見通しが持てるようにスライドで提示する。
 - ・テレビ画面や主指導の指導者に注目できるように、必要のない物品、椅子や机は部屋から出しておく
 - ・イメージを持ちやすいように絵や写真を使ったスライドショーを用意する
- 生徒が「やってみたい」と思えるような場作りをする
 - ・実際の券売機や、車内の雰囲気イメージしやすいように模型やプロジェクターを用意する
 - ・場面の進行がわかりやすいように、進行表を兼ねた地図を用意する
 - ・楽しい気分を取り組めるように、クイズ形式にする
- 実際の状況につながるような工夫をする
 - ・校外学習に持っていける手順書やタブレット端末を使用して事前学習に取り組む
 - ・イメージを具体的に持ちやすいように実際の映像や写真を用意する

○支援について

- 生徒が活動しやすいように、必要に応じた支援を行う
 - ・どうやってやるのか最初に指導者がモデルを示す
 - ・手順書やタブレット端末を見るように指さす
- 初めての活動で、不安なく取り組めるように支援を行う
 - ・券売機で切符を買うシュミレーションのときにはタブレット端末の画面をテレビに映してどのように操作するとよいのか分かりやすくする
 - ・生徒の真横で見守り、ボタンを押していいか迷っているときには、「どうぞ」という意味を込めて頷く
- 生徒が自分から活動できるように支援を行なう
 - ・最初の一人が切符を買う時は、指導者がモデルを示すようにし、二人目以降からは先に切符を買った生徒の行動をモデルとして徐々に支援を減らしていく
 - ・指導者は生徒が支援を求めてくるまでは、少し離れたところで見守る
 - ・手順書やタブレット端末を確認しながら行動できた時には、すぐにその場で褒める

3. 本ユニットの実施計画

(1) 授業実施計画

全22時間（本時第6時間目）

学習項目	内 容	状況作り及び支援の要点	時間配当
修学旅行について知ろう	○見通しを持つ ・修学旅行の行程についてスライドショーを見たり、行き先の写真や動画を見たりする ○学級旗を作る ・修学旅行にまつわるイラストの入った旗を作る ・自分の名前のステンシルをする ・学校祭で学級旗をみんなで持って発表する	・3日間の活動イメージを持ちやすいように、イラストや写真を使ったスライドショーを用意する ・完成見本の写真を用意しておく ・旗のどの位置に自分の名前のステンシルをするか聞く。指さしや言葉で選択することが難しい生徒には目線を確認する	4 h
グループ活動について知ろう	○グループの活動内容を知る ・実際の活動がイメージできるようにシュミレーションを行う	・一緒に活動するメンバーごとに分かれて事前学習を行う ・公共交通機関を使って、友達と協力して目的地まで行くシュミレーションをする	2 h (本時)

事前校外学習	○グループ別活動 ・集団のペースに合わせて移動する ・公共交通機関を使って、友達と協力して目的地まで行く	・集団から離れてしまったら、言葉かけをして、集団に戻るよう に促し、戻れたら褒める ・指導者はなるべく見守る	6 h
体験しよう	○バーベキュー ・それぞれの役割を担って、調理作業をする ・材料を混ぜて揉みこんでソーセージを作る	・イメージが湧くように豚の模型を用意する ・楽しい気持ちが高まるように、材料を混ぜたり揉んだりしているときに音楽をかける	6 h
役割を担おう	○役割ごとに分かれて活動する ・役割表を作る ・挨拶・お礼の練習をする	・役割表の枠を用意しておき、写真や活動内容を順番に貼れるようにしておく ・指導者がはっきり大きな声を出してモデルを示す ・はっきり大きな声で挨拶やお礼が言えた時に褒める	2 h
最終確認をしよう	○スケジュールの確認 ・しおりを見て行程の確認をしながら、しおりの見方を知る	・指導者がしおりを指さしながら一緒に行程を確認する	2 h

(2) 指導計画（個別）

児童 生徒	行動目標 ※本時	できる状況づくりと支援
A	<p>○カードを見て，模型の券売機の正しい料金ボタンを押す （4単位時間）</p> <p>①指導者と一緒にカードを見て料金を確認し，模型の券売機の正しい料金ボタンを押す （2単位時間）</p> <p>②カードを見て，模型の券売機の正しい料金ボタンを押す （2単位時間）（※本時）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者が最初にモデルを示す ・提示された料金ボタンを押せた時には，「正解」がすぐわかるような表示がタブレット端末の画面にできるようにしておく ・正解した時には褒める ・どのボタンを押せばよいか迷っているときにはカードを指さす
B	<p>○ふれあいの里に近づいていく市バスからの景色の映像を見て，降車ボタンを押す （4単位時間）</p> <p>①ふれあいの里に近づいていく市バスからの景色の映像を見ているときに，言葉かけを受けて降車ボタンを押す （2単位時間）</p> <p>②ふれあいの里に近づいていく市バスからの景色の映像を見て，降車ボタンを押す （2単位時間）（※本時）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者が最初にモデルを示す ・ボタンが押せない場合には，まずAがモデルとしてボタンを押し，再度繰り返す ・事前に映像を見て押すタイミングを確認する ・降車ボタンを押せた時には褒める
C	<p>○自分の役割を知り，友達が活動する場面では座って待つ （4単位時間）</p> <p>①自分の役割を果たした後，友達が活動しているときは指導者と一緒に座って待つ （2単位時間）</p> <p>②自分の役割を知り，友達が活動する場面では座って待つ （2単位時間）（※本時）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に指導者が切符の買い方のモデルを示す ・誰が役割を担っているかわかるように進行表に星印をつけておく ・友達の活動を見守るカードを用意しておき，友達の活動中に離席した時にはカードを指さして，誰が活動しているかわ知らせる ・友達の活動を見守れた時には褒める

4. 本時の授業について

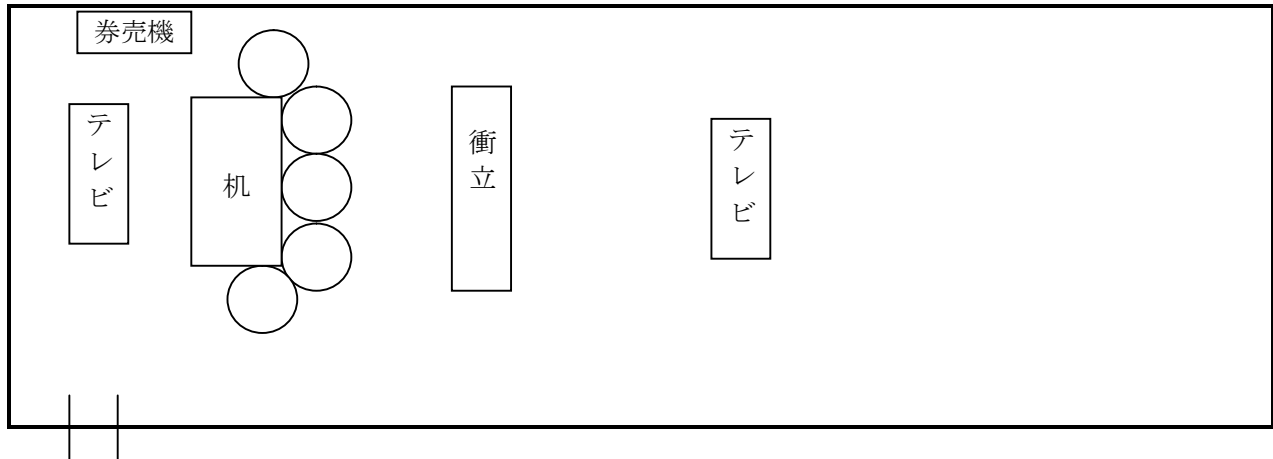
(1) 本時の展開

学習内容（項目）	児童生徒の活動	指導者の活動／支援
始めの挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・ 始めの挨拶をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶をする生徒と一緒にジェスチャーや言葉かけをしながら挨拶をする
活動内容を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・ スライドと進行表を見て本時の活動の流れを確認する ・ 手順書、タブレット端末の使用方法を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見通しを持って活動できるように活動の流れを文字やイラストで示す ・ 手順書は活動が終わったらおしまい枠に貼っていくことや、アプリの画面でタッチすることを一緒に確認する
行程のシュミレーションを行う	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉乗車証を提示する（Bは療育手帳を提示して切符を購入する） ・ 動画を見て、降りるべき駅のタイミングで立つ（B） ・ 廊下に出て、矢印や表示を見て移動する ・ 友達の活動を座って見守る（B） ・ 模型の券売機で切符を買う（A，B，C） ・ 動画を見て、降車するバス停が近づいてきたらボタンを押す（C） ・ 場面ごとに進行表の駒を進めていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場面ごとの重要なポイントを、声に抑揚をつけたり身振り手振りを大きくしたりして強調する ・ 指導者は最初にモデルを示す ・ 生徒に応じて距離をとり、状況に応じて指さしや言葉かけをする ・ 迷っているときには、手順書やアプリを指さしたり説明したりする ・ 友達の活動中に離席した時には、言葉かけやカードの指さしをする ・ 最初に指導者がモデルを示す ・ 友達の操作がわかるように券売機の画面をテレビに映す ・ 最初に指導者がモデルを示す ・ 駒には生徒の写真を貼っておく
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今日頑張ったこと、できたことを選択してその内容を答える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動内容のカードを提示して選択できるようにする ・ 拍手をする
終わりの挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・ 終わりの挨拶をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶をする生徒と一緒にジェスチャーや言葉かけをしながら挨拶をする

(2) 本時の評価

A	カードを見て，模型の券売機の正しい料金ボタンを押せたか
B	ふれあいの里に近づいていく市バスからの景色の映像を見て，降車ボタンを押せたか
C	自分の役割を知り，友達が活動する場面では座って待つことができたか

5. 配置図



6. 授業の評価

(自：自己評価 他：他者評価 A：適切 B：どちらかといえば適切 C：どちらかといえば不適切 D：不適切)

授業評価の観点	自	他	備 考
適切なできる状況づくりがなされていたか			
・教材はどうだったか			
・場の構造化，物品の配置はどうか			
・支援者の配置や役割分担はどうか			
支援のあり方はどうだったか			
・支援者の話しかけや指示はどうだったか			
・教材の提示の仕方やモデルの示し方はどうだったか			
・子どもの様子の把握とそれに対する対応はどうだったか			
その他，授業者設定項目			

学年ライフスタディ コミュニケーション・礼儀ユニット ～レポーターになって校外学習のレポートをしよう～

京都市立西総合支援学校 高等部

活動グループ： 3年ユニット（男子4名，女子4名，計8名）

授業者： ◎多々良優子

授業期間： 9月2日～11月11日 全7回 14時間

本 時： 11月4日 13：15～14：30（第5，6校時）

11，12時間目／14時間

ユニット参加児童生徒の障害

■知的障害（ 7名 内，自閉症 2名 ）

■知的障害・肢体不自由重複障害（ 1名 ）

□その他（ ）

1. 本ユニットで取り扱う目標（3ケース抽出）

児童 生徒	短期目標（○：ユニットの中心課題） （・：取り扱う関連課題）	本ユニットで取り扱う行動目標
A	・聞かれた質問に2語文以上で答える	・2語文以上の感想をゆっくり丁寧に話す
B	・ゆっくりと1音1音を，発音する	・感想を1音1音はっきりと発声し，発表する
C	・誰とでも嫌な顔をせず普段通りに接する	・友だちの姿をビデオで撮影する

2. ユニットについて

(1) 児童生徒について

A：本生徒は、ワークスタディは園芸班で活動しており、大きいシャベルで土を掘り、掘った土をバケツに入れる作業も積極的に行うなど、体を動かす仕事が好きで、楽しく取り組んでいる。また、班長として出席確認や反省会の司会などを任されている。班長である、という責任感を持つことで、何事にも張り切って取り組む姿が見られるようになってきた。文字を読むことが苦手なため、出席確認時には写真付きの名簿を用意し、顔を確認しながら点呼を行っている。自分ひとりで名簿を見て点呼ができることが、自信に繋がり、大きな声ではっきりと聞き取りやすく名前を呼ぶことができるようになってきた。放課後には部活動(スポーツ)に参加しており、走りや球技などのハードな練習にも意欲的に参加するなど、身体を使って活動することが好きである。人と関わることが好きで、休憩時間にはいろんな指導者に会いに行き、自分のことを話し、伝えている。このように、何事にも積極的に取り組み、楽しく会話することができるのだが、聞かれた質問に答えることが苦手で、主語のない単語だけで答えてしまう。話すことは好きで、自分の話を自分のタイミングで話しかけることは多いが、話さなければならぬ状況になると、どう答えればよいかわからなくなってしまうようである。

友達と明るく楽しそうに話をしたり、周りの指導者とも会話を楽しむことができ、話すことが大好きな生徒であるため、どのような場面、どんな相手であっても、自分の気持ちを伝え、互いの想いを理解し合えるようになってほしい。卒業後、新しい環境で生活をするにあたって、言葉でのやり取りは大変重要なことであると考え。自分の気持ちを文章にし、読む練習を繰り返すことで、会話の中でも自分の気持ちを文にして伝えることができる力をつけていきたい。

B：本生徒は、自分の思いを単語で相手に伝えることができる。周囲の会話を楽しんで聞いており、冗談を言うことが好きで、機嫌が良いと「こんばんは」と言って周囲の反応を楽しんでいる。

ワークスタディでは木工班で活動しており、鋸がスライドする治具付属の鋸ぎりで木材の寸法切断作業をしている。指導者が治具に木を差し込んでセッティングすると、右手で鋸ぎりを握り、巧みに木を切断することができる。本人も鋸ぎり挽きが好きで、自信を持っており、30分間黙々と右手一本で切り続けている。切り終わると「できた」と指導者に伝え、次の木を指導者にセッティングしてもらおうと、すぐにまた切り始める。

普段は、明るくいつもニコニコとしており、話をするとどんなことでも「はい」と元気な声で返事をしてくれる。自分の好きな単語があり、何を質問されてもその単語を答える。周りが反応してくれる言葉をわざと言って楽しもうとしている。

人との関わりが好きで、歌うことや話すことが好きな生徒であるため、様々な場面で、より多くの種類の言葉を話すことで、人と会話を楽しむことができるようになってほしい。多くの言葉をはっきりと話すことで、相手に気持ちが伝わることの大切さを感じ、話す習慣づけを行なっていきたい。

C：本生徒は、自分から様々な仕事を引き受けようとするなど、思いやりがありリーダーシップがある。スポーツ部では厳しい練習にも弱音を吐くことなく、自分の記録に挑戦するなど、何事にも積極的に取り組むことができる。卓球バレーでも、技術があり、チームにとって必要とされているのだが、チームプレイで、人が失敗をしたり、自分のプレイを注意されると、気持ちが落ち込んでしまい、活動に参加できなくなってしまうことがある。優しく気遣いもできる生徒であるため、気分を態度に出してしまうことで損をすることは非常に残念なことである。今後、進路を控え、働く上で、自分の思いだけが通るわけではないということを知り、嫌なときでも気持ちのコントロールができるようになってほしい。

人と関わり、1つの作品を仕上げるために、良い部分、悪い部分を互いに指摘し合い、「良い作品を作ろう」と、みんなで協力することができる考える。互いに意見を言い合い、また共感する部分を感じることで、人とのコミュニケーションの重要性を感じ、誰とでも接することができる協調性をつけていきたい。

（２）ユニットの設定

本ユニットは、コミュニケーション、社会的マナー、発音発語に課題を持つ生徒たちで編成されたユニットである。生徒たちは各自、各場所で、班長を任されたり、生徒会で活動をするなど、積極性があり、行動力がある。だが、挨拶や姿勢など、基本的なことをおろそかにしてしまうことがあるため、それらはメンバー全員の目標であり、これまでのユニットの活動でも、正しい立ち姿勢や座り姿勢を意識し、挨拶を大きな声ではっきりと言うなど、卒業後の進路につながる取り組みを行ってきた。全員で取り組むことで、お互いを注意したり褒めあうことができ、意識を高めることができた。

ユニットメンバーがアニメの声優としてそれぞれの役になりきり、セリフを吹き込むという課題にも取り組んだ。見る人が聞き取りやすい言葉で話せるよう、繰り返し練習を行った。みんなが知っていて興味のあるアニメを題材にすることによって、キャラクターになりきり、はっきりと発語しようと意識して取り組むことができた。繰り返し取り組むことで、生徒同士でも注意し合えるようになり、「もう少し声が大きいとよかったよ」などのアドバイスを言い合う姿が見られるようになった。また、「声が大きすぎてすごくよかった」などという、褒め合う姿も見られ、互いを尊重する姿勢が生まれてきた。

そこで今回は、ユニットメンバーが校外学習の感想をレポートした姿をビデオで撮影し、写真と合成してレポーターになりきりという課題に取り組む。実際に行った場所で、自分が体験したことをレポートすることで、レポーターになりきり、はっきりと発語できると考える。文章をただ読むだけでなく、見る人が状況や感想をイメージしやすいように伝える、聞き取りやすく話す、ということ意識して取り組んでほしい。指導者主体ではなく、生徒同士で活動することで、苦手な人、苦手な状況の中でも積極的に取り組む姿勢を身につけてほしい。

一人では難しいと思われることでも、仲間と一緒に取り組み、互いに評価し合うことで、より良い作品に仕上げようとする向上心を持ちながら、自分の課題を達成して欲しい。そして、表現する楽しさを感じると共に、自分の“できる”を活かして役割を担う意欲や自信を高めていければと考える。

（３）状況づくりと支援について

＜状況づくり＞

- ・授業中に何を意識すべきかが確認ができるように、ホワイトボードに「ここを意識して取り組む」という内容を掲示しておく。
- ・指導者の言葉かけがなくても、自ら活動ができるために、本時の活動スケジュールを掲示し、授業中の指示の言葉かけを少なくする。
- ・音声を手がかりにしている生徒の為、言葉かけ支援用 ipad を用意しておく。
- ・生徒同士が適切な関わりを持ちながら、集中して取り組むことができるように、活動グループを２つに分け、場所の配置を離して設置する。

＜支援＞

- ・生徒同士での取り組みを大切にしたいので、できるだけ指導者は見守りの姿勢をとる。
- ・生徒同士で授業を進行できるよう、まとめ役生徒には進行表を渡し、表を見て進行できるようにする。
- ・できたことへの評価は最大限の賛辞と拍手をもって行う。また、他生徒が褒められたことで、自分も褒められたいという意欲を引き出す為、みんなに聞こえるように褒めるようにする。

3. 本ユニットの実施計画

(1) 授業実施計画

全14時間（本時第11，12時間目）

学習項目	内 容	状況作り及び支援の要点	時間配当
校外学習事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 錦市場について調べる ・ 錦市場までの行き方を調べる ・ 錦市場で食べたい物を決める ・ 予算内で食べれる物を決める 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の興味のある場所，食べ物 の写真を提示する ・ インターネットでお店を調べら れるよう，写真に店名を写して おく 	2時間
校外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集合場所に現地集合する ・ 事前に調べたお店を見つけ，食 品を購入し，食べる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒同士で現地まで行けるよう， 駅や駅出口の写真をルートに示 したものを渡しておく ・ 事前に購入品を記入した用紙を 当日持参する 	2時間
校外学習事後学習 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真を見て振り返る ・ 感想を書く ・ 感想に合った写真を選ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が思い出しやすいよう，写 真を見ながら，その時の様子を 伝える 	2時間
校外学習事後学習 ②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感想文暗記 ・ 文章読み練習 ・ レポート映像撮影 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 撮影した映像をその都度チェッ クし，自分の姿を客観的に見る 	6時間
鑑賞会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 完成作品試写会 ・ 感想発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感想を細かく分類して記入でき るように用紙を用意しておく 	2時間

(2) 指導計画 (個別)

児童 生徒	行動目標 ※本時	できる状況づくりと支援
A	① 2語文以上の決められた文章を読み上げる ※ (5, 6時間目 / 6時間) ② 2語文以上の感想をゆっくり丁寧に話す (2時間)	・できたことを褒め, 達成感を高める ・文節に分けて話せるよう, 表を掲示する
B	① 決められた文章を1音1音はっきりと発声する ※ (5, 6時間目 / 6時間) ② 感想を1音1音はっきりと発声し, 発表する (2時間)	・映像, 音による作業補助を用いる ・できたことを褒め, 達成感を高める
C	① 友だちの姿を ipad で撮影する (6時間) ② 友だちの姿をビデオで撮影する ※ (5, 6時間目 / 6時間)	・進行表を用意する ・できたことを褒め, 達成感を高める

4. 本時の授業について

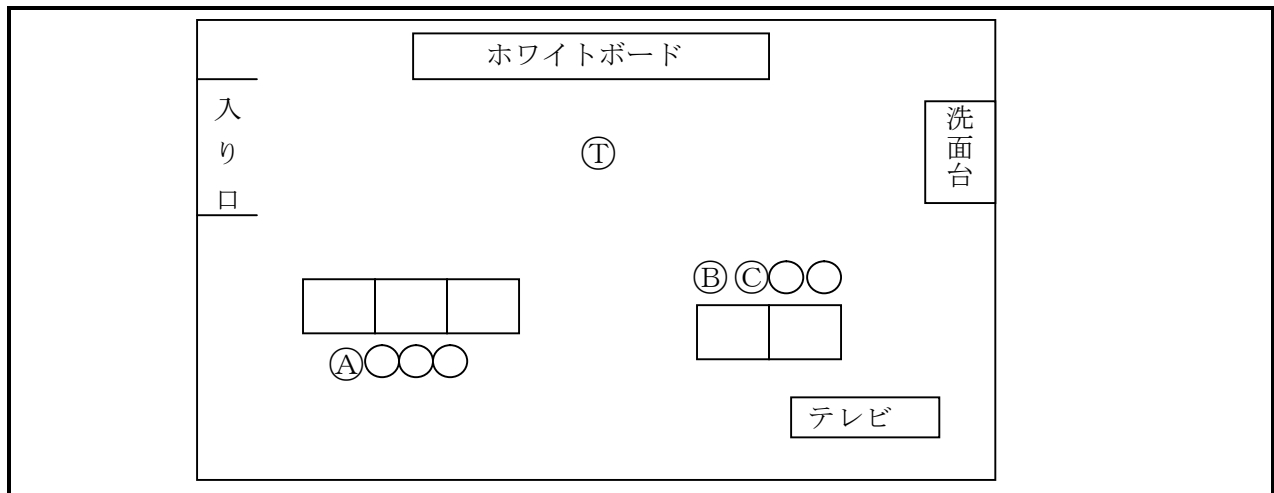
(1) 本時の展開

学習内容（項目）	児童生徒の活動	指導者の活動／支援
○挨拶・出欠確認	<ul style="list-style-type: none"> 代表生徒が挨拶の号令をかける はっきり大きな声で挨拶をする (A, B, C) 代表生徒が友達の名前を呼ぶ (A) 名前を呼ばれたら「はい」と返事をする (B, C) 	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢を正すよう指導者は言葉をか ける 写真付き出席簿を用意し、確認する度に丸を付ける
○本時の活動内容確認	<ul style="list-style-type: none"> 指導者から本時の活動を聞く 本時の注意点を聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードに本時の予定・注意点を掲示する
○前回の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 前回撮影した作品を見る 前回より良い作品にする為の目標を考える 	<ul style="list-style-type: none"> テレビ画面で前回作品を上映する
○グループ別練習	<ul style="list-style-type: none"> グループ別で読み練習 (B, C)・テレビの電源を入れ、セッティングする 2語文以上の決められた文章を読み上げる (A) 決められた文章を1音1音はっきりと発声する (B) 	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに分かれて活動を進められるように座席を区分けする 生徒同士で進行できるよう、進行表を用意する 音声支援用 ipad を用意しておく 練習が止まっている時には促しの言葉かけをする
○本番撮影	<ul style="list-style-type: none"> 一人ずつ友だちの姿をビデオ撮影する (C) 	<ul style="list-style-type: none"> 撮影中は静かに待つように言葉かけをする
○片付け	<ul style="list-style-type: none"> 友達と協力して使用したものを片付ける 座席を元の配置に戻す 	<ul style="list-style-type: none"> 友達を誘って片付けをするように言葉かける 片付けを忘れていたものがある場合は言葉かけをする
○本時の学習を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> 本時を振り返り、友達のよかったところ、自分が頑張ったところを発表する (A, B, C) 	<ul style="list-style-type: none"> 褒められることで達成感や自信が持てるような言葉かけをする
○挨拶	<ul style="list-style-type: none"> 代表生徒の呼びかけで終わりの挨拶をする 	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢を正すように言葉かける

(2) 本時の評価

A	・ 2 語文以上の決められた文章を，読み上げることができたか
B	・ 決められた文章を 1 音 1 音はつきりと発声できたか
C	・ 友だちの姿を，撮影役になり，みんなが順番に基準通り撮影できるよう取りまとめられたか

5. 配置図



6. 授業の評価

(自：自己評価 他：他者評価 A：適切 B：どちらかといえば適切 C：どちらかといえば不適切 D：不適切)

授業評価の観点	自	他	備 考
適切なできる状況づくりがなされていたか			
・ 教材はどうだったか			
・ 場の構造化，物品の配置はどうか			
・ 支援者の配置や役割分担はどうか			
支援のあり方はどうだったか			
・ 支援者の話しかけや指示はどうだったか			
・ 教材の提示の仕方やモデルの示し方はどうだったか			
・ 子どもの様子の把握とそれに対する対応はどうだったか			
その他，授業者設定項目			
・ 個々の目標を意識させることができたか			

中21「レンジで簡単スパゲティを作ろう」

～自分でレシピを確認して調理する～

場所：西棟2階調理室小

対 象： 中学部1年～2年 男子1名，女子5名，計6名
授 業 者： ◎松山 知英 田河 絹代 伊吹 さおり
授業期間： 10月24日～2月27日 全14回 28時間
本 時： 19，20時間目／28時間 10：00～11：30（第2，3校時）

ユニット参加生徒の障害

■知的障害 (6名 内，自閉症 4名)

□知的障害・肢体不自由重複障害 (名)

□その他 ()

1. 生徒について

生徒	短期目標	行動目標（＊本時）
	・安全に調理器具を使う	＊包丁を使って玉ねぎとピーマンをレシピと同じ程度の大きさに切る
B	・全て一人でできる調理をする	＊タブレット型端末を自分で操作し，レシピを見てなるべく一人で調理を進める
C	・洗った食器を布巾で拭き，水気を取る ・包丁で食材を銀杏切りや千切りにする	＊食器に水気が残っていないかを自分で見て拭く ＊包丁で玉ねぎとピーマンをレシピと同じ程度の細切りにする

2. 本ユニットについて

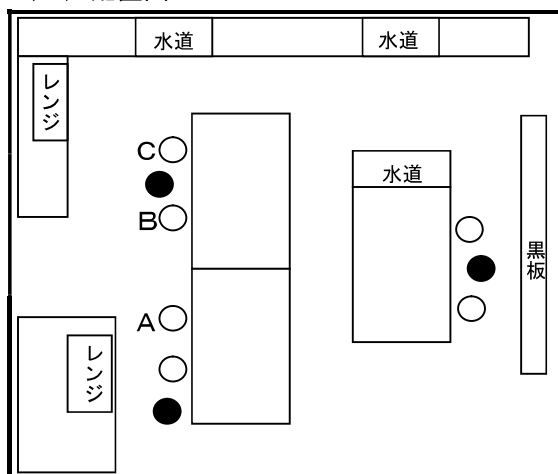
本ユニットは，より自立的な家庭生活を送るために必要なスキルの習得を目指して学習している。できることは自分ですること，家事の中で役割を担うことで，より充実した家庭生活を送ることができるようになることを考える。このユニットでは，衣食住の中でも，生徒がより興味を持っている調理について学ぶ。本ユニットの生徒は，わかる活動には一人で取り組むことができる生徒が多く，また視覚的にわかりやすい支援によって，自主的に取り組むことができる生徒で構成されている。今後，家庭において，一人もしくは少ない支援の中で調理の活動に取り組むことを考え，電子レンジ用いた調理法でできる献立に取り組む。調理の手順については，生徒にとってよりわかりやすく，扱いやすい方法として，タブレット型端末のアプリ『ロイロノート』を使用する。静止画像と音声によって，一つ一つの工程を，順を追って確認しながら調理を進めることができる。アプリの手順に沿って自分で調理することを通して，達成感を味わい，家庭においても自分でやってみようとする意欲につなげたい。

3. 本時の授業について

(1) 本時の展開

学習内容	生徒の活動	できる状況作り・支援
○始めの挨拶 出欠確認 ○本時の予定確認	<ul style="list-style-type: none"> ・号令に合わせて挨拶をする ・名前を呼ばれたら返事をする ・本時の授業内容を聞く ・調理グループを確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に号令をかける生徒を指名する ・生徒1名に呼名するように促す ・黒板に文字で、献立や注意事項を提示しておき、読み上げながら説明する ・タブレット型端末の『ロイロノート』のレシピを提示し、説明する ・黒板に作業テーブルとグループがわかるように写真カードで提示する
○調理 献立： 『レンジで簡単ト マトスパゲティ』	<ul style="list-style-type: none"> ・『ロイロノート』で調理手順を確認しながら、調理をすすめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・『ロイロノート』で、事前に指導者が写真と音声でレシピを作成しておく ・各グループに1台のタブレット型端末を用意しておく ・使用する道具や材料はまとめて空テーブルに置いておく ・まず材料や使う道具を揃えるところから始めるようにレシピを作っておく ・必要に応じて言葉かけや手添え、モデル提示などの支援をする
○試食 ○片付け	<ul style="list-style-type: none"> ・皿に盛り付け、試食する ・使った食器や道具を洗剤で洗う ・洗い終えた食器を布巾で拭く 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉かけをし、分担して洗うように促す ・食器に水気が残っているときは言葉かけや指さしで示す
○反省会	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の感想を発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・言いにくい生徒に対しては、簡単な質問をすることで発表を促す
○次時の予定確認	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の献立や予定についての説明を聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の献立や予定を説明する
○終わりの挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・号令に合わせて挨拶をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に号令をかける生徒を指名する

(2) 配置図



(3) 本時の評価

A	<ul style="list-style-type: none"> ・包丁を使って玉ねぎとピーマンをレシピと同じ程度の大きさに切ることができたか 	
B	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット型端末を自分で操作し、レシピを見てなるべく一人で調理を進めることができたか 	
C	<ul style="list-style-type: none"> ・食器に水気が残っていないかを自分で見て拭くことができたか ・包丁で玉ねぎとピーマンをレシピと同じ程度の細切りにすることができたか 	

小17「ウエスト筋肉番付」

場所：体育館

対 象： 小学部4年～6年 男子6名、女子2名、計8名

授 業 者： ◎吉本 早苗 井上 陽子 浪崎 まどか

授業期間： 10月24日～2月20日 全14回 28時間

本 時： 21, 22時間目／28時間 10:30～11:15 (第3, 4校時)

ユニット参加児童の障害

■知的障害 (8名 内、自閉症 7名)

□知的障害・肢体不自由重複障害 (0名)

□その他 ()

1. 児童について

児童	短期目標	行動目標（＊本時）
A	○遊具や道具を使って両手両足など、全身を使って運動する	・ i P a dの手本を見ながら、両手に持ったペットボトルを上下に動かしたり、踏み台昇降をしたりする
B	○揺れている大縄を両足で10回以上連続跳びをする ○手本を真似て、腕を伸ばす、腕を回す、前屈する、屈伸するなどの動きをする	・ 指導者の手本を見て、揺れている大縄を両足で5回以上連続跳びをする ・ i P a dに映し出された手本を見て、腕を伸ばす、腕を回す、前屈する、屈伸するなどの動きをする
C	○小波の大縄を足をそろえて1回跳ぶ ○指導者の言葉かけで運動場を2周走る	・ 小波の大縄を足をそろえて1回跳ぶ ・ 体育館の四隅に置かれたV O C Aやベルを順に押しながら5分間走る

2. 本ユニットについて

本ユニットは、器具や機械を使う、歩いたり走ったりする等、身体をダイナミックに動かすことをねらいとした児童で構成されている。児童は、指導者の伴走で周回コースを走ったり、向かい合って大縄を跳んだりする活動に意欲的に参加することができている。しかし、日常的に運動量の少ない児童がほとんどである。身体のような部位を使って体を動かすことで、体力を高めたり、いろいろな動きにチャレンジしたりできるようになってほしい。

本ユニットでは、まず全体でのランニングと大縄跳びに取り組む。ランニングでは、体育館の周回コースに沿って走ることができるように、四隅にV O C Aやプッシュベルを置き、それらを押しながら走ることにした。各ボタンには、児童が好みそうな正解音やファンファーレなどがあらかじめ録音してあり、ボタンを押すことを楽しみに走り続けられると考えられる。大縄跳びでは、児童が目標とする跳び方がそれぞれ異なるため、順番で個別に取り組むことで確実に跳べるようになってほしい。

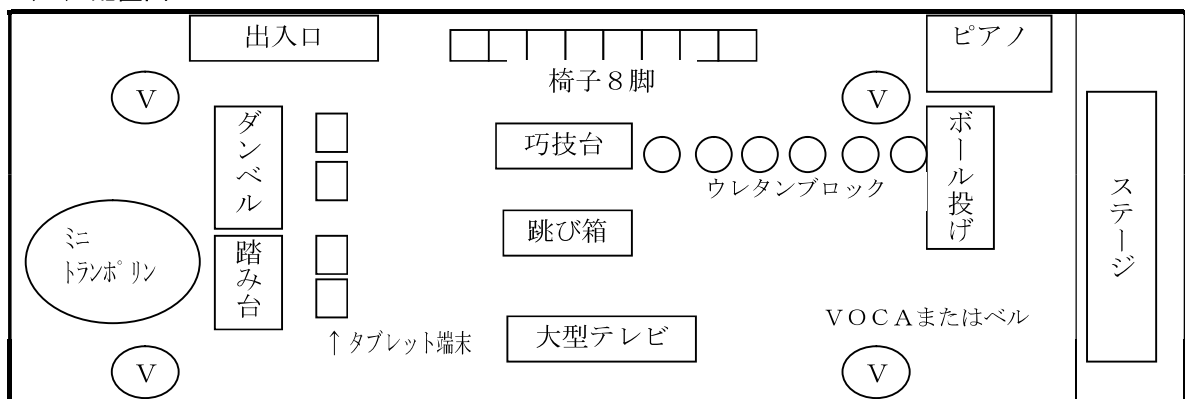
次に、個別の運動課題に取り組む。タブレット端末に録画した動画を見ながら、ダンベル体操や踏み台昇降などを行う。この2つの運動をサーキット運動のように巡回し、運動量を確保したい。児童によってねらいとする運動が異なるため、4つのグループに分けて、それぞれが課題とする運動に重点的に取り組むことにした。各グループを6分ごとに交代し、児童が体を動かしている時間を増やし、目標となる運動に集中して向かえるようにしていきたい。

3. 本時の授業について

(1) 本時の展開

学習内容	児童生徒の活動	できる状況作り・支援
はじめの挨拶	・グループごとに椅子に座る。	・椅子に児童の顔写真を貼り、どこに座るかがわかるようにしておく。
ランニング	・指導者の言葉かけに続いて「はじめます」と言う。	
大縄跳び	・指導者の言葉かけを聞いてスタート位置に集まる。	・楽しみながら走り続けられるように、周囲コースの四隅にV O C Aやプッシュペルを置き、それらを押しながら走るポイントを設置する。
個別の運動課題	・体育館の四隅に置かれたV O C Aやペルを順に押しながら5分間走る。(C)	・走る時間を大型テレビにタイマーを表示し、終了したら音になるようにする。
	・指導者の手本を見て、揺れている大縄を両足で5回以上連続跳びをする。(B)	・必要に応じて指導者が手をつないで跳ぶ。
	・小波の大縄を足をそろえて1回跳ぶ。(C)	・児童が一人で運動に取り組めるように、指導者が手本を示す動画を録画したタブレット端末を複数用意する。
	・タブレット端末の手本を見ながら、両手に持ったペットボトルを上下させたり、踏み台昇降をしたりする。(A)	・動きがわかりやすいように、左右対称の動きの体操を取り入れる。
	・タブレット端末の手本を見て、腕を伸ばす、腕を回す、前屈するなどの運動をする。(B)	・椅子には児童の顔写真を貼り、どこに座るかがわかるようにしておく。
終わりの挨拶	・タイマーの音を聞いて椅子に座る。	
	・指導者の言葉かけに続いて「おわります」と言う。	

(2) 配置図



(3) 本時の評価

A	・タブレット端末の手本を見ながら、両手に持ったペットボトルを上下に動かしたり、踏み台昇降をしたりすることができたか	
B	・指導者と手をつなぎ、揺れている大縄を両足で2回跳んでから、指導者が手を離してから3回跳ぶことができたか ・タブレット端末の手本を見て、腕を伸ばす、腕を回す、前屈する、屈伸するなどの動きをすることができたか	
C	・小波の大縄を足をそろえて1回跳ぶことができたか ・体育館の四隅に置かれたV O C Aやペルを順に押しながら5分間走ることができたか	

高27「感謝を伝えるDVDを作ろう」

～お世話になった人に感謝の気持ちを伝えよう～ 場所：西棟3階2年3組教室

対 象： 高等部2年 男子5名，女子1名，計6名

授 業 者： ◎多々良 優子 中川 智至

授業期間： 1月14日～2月4日 全8回 16時間

本 時： 6時間目／16時間 10：45～11：30（第3，4校時）

ユニット参加生徒の障害

■知的障害 (4名 内，自閉症 2名)

■知的障害・肢体不自由重複障害 (2名)

□その他 ()

1. 生徒について

生徒	短期目標	行動目標（＊本時）
A	・活動の準備・片付けを手伝う ・何か手伝って欲しい時は「お願いします」と支援者に伝える	＊自分の机を活動場所に移動させる ＊衣装を身につけ，紐を指導者に差し出し，「お願いします」と言う
B	・次の活動への移動中に，気になることがあっても行く方向を示した手や，行き先を聞いて移動する	＊指導者が「ここです」と呼んだ方向に自走で移動する
C	・学習で利用する道具を正しく使う	＊指導者の指示に従って，テレビの電源をON・OFFにする ＊ローリングカッターを握り，前後に動かし，用紙に切取り線をつける

2. 本ユニットについて

本ユニットは，活動を通して自己の役割を担う中で，自分の苦手なことに取り組もうとする生徒達で編成されたユニットである。

興味のある題材をもとに自分の苦手なことに取り組み，やってみたことで「できた」という自信を持てるような授業にしたい。そこで，生徒一人一人に役割を設定し，役割を担う中で自分の苦手を克服して作品を作り，それを最終的に集結させることによって一つの作品に仕上げ，自分の頑張りによって大きな作品ができたという，自分自身の達成感を見出させたい。

一人では難しいと思われることでも，仲間と一緒に取り組み，自分の課題を達成していくことで，表現する楽しさを感じる事ができる。その中で，自分の“できる”を活かしての役割を担う意欲と自信を高めて欲しい。その中で，他者との良好な関係を築く基本である『助けられたり，手伝ってもらった時に自分から「ありがとう」という』感謝の言葉が自然と発せられるようにしていきたい。

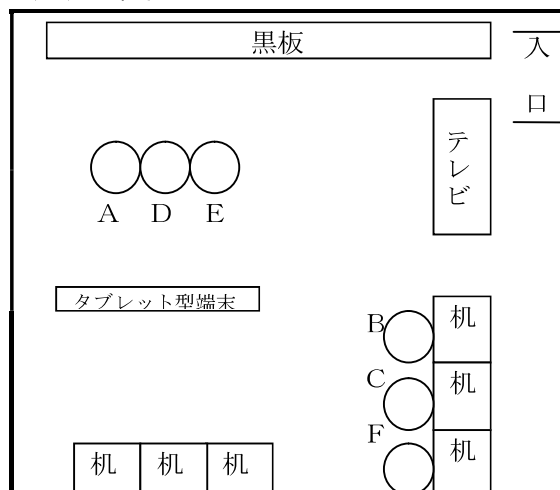
今回の『感謝ビデオ』は，学年で行う感謝祭で多くの人に見てもらうものであり，今までの広報の作品作りにはなかった映像の製作活動であるため，一人一人が役割を担って作り上げる製作の楽しさや喜び，達成感を味わうことができる教材であると考えてる。

3. 本時の授業について

(1) 本時の展開

学習内容	生徒の活動	できる状況作り・支援
○挨拶・出欠確認	・名前を呼ばれたら「はい」と返事をする (A, B, C)	・本人なりの返事が出来ていない場合は「〇〇さん、呼ばれてますよ」と指導者は言葉かけする (B, C)
○本時の活動内容確認	・役割分担の確認をする	・本時の予定を黒板に示す
○準備	・各自、活動位置に移動する ・テレビの電源をONにする (C)	・友達同士で準備できるよう「〇〇くんを誘ってあげて」と言葉かけをする (A) ・作業場所がわからない生徒には指導者「ここです」と言葉かけをする (B)
○本時の展開	2 グループに分かれて活動する ① 感謝祭のシミュレーション (A) ・衣装を身につける ・練習風景をタブレット型端末で撮影し、撮った映像をテレビに繋ぎ、全員で見確認する ② チケット作り (B, C) ・チケット用紙にローリングカッターで切取り線を付ける	・テレビの写真カードを見せて「押してください」と言葉かけをする (C) ・生徒の前で、指導者Aが衣装を身に付け指導者Bに「お願いします」と紐を差し出す見本を行う (A) ・カッターを前後に動かしやすいよう、用紙を机に固定する ・カッターを握るように手添えをする (B)
○片付け	・友達と協力して使用したものを片付ける ・自分の座席につく	・片付けを忘れているものがある場合は言葉かけをする (A) ・作業場所がわからない生徒には指導者が「ここです」と言葉かけをする (B)
○本時の振り返り		
○挨拶	・代表生徒の呼びかけで終わりの挨拶をする	・姿勢を正すように言葉をかける

(2) 配置図



(3) 本時の評価

A	・自分の机を活動場所に移動させることができたか ・紐を指導者に差し出し、「お願いします」と言うことができたか	
B	・指導者が「ここです」と呼んだ方向に自走で移動することができる	
C	・指導者の指示に従って、テレビの電源をON・OFFにできたか ・ローリングカッターを握り、前後に動かし、用紙に切取り線をつけることができたか	

中モデル⑥ 「来て見て買って！『西総合マート』」 ～居住地域で役割を担う～

京都市立西総合支援学校 中学部

活動グループ： 居住地域＜洛西ユニット＞（男子3名，女子2名，計5名）

授業者： ◎北田恵那 西村京子（指導案作成者◎）

授業期間： 1月28日～2月18日 全4回 8時間

本時： 10:00～11:30（3，4時間目／8時間）

授業場所： 中棟2階 中学部2年4組教室

ユニット参加児童生徒の障害

☒知的障害（3名 内，自閉症 1名），☒知的障害・肢体不自由重複障害（2名）☐その他（ ）

1. 本ユニットで取り扱う目標（3ケース抽出）

児童生徒	短期目標（○：ユニットの中心課題） （・：取り扱う関連課題）	本ユニットで取り扱う行動目標
A	○初めて会う人にも落ち着いて挨拶をし，カードと言葉で用件を伝える ・ルールを守って，公共施設や交通機関を利用する	・製品が売れた時にカードを読んで金額を伝え，伝わらない時には，カードを見せる ・バスを利用する時に，車内では静かにする
B	○居住地域で活動する時に，居住地域の大人や友達の問いかけに，顔を動かしたり，発声したりして返答する ○スイッチを作動させたり楽器に触れて音を出したりして，地域の方の前で発表する	・製品を売る時や実演をする時に，友達や居住地域の大人の言葉かけを聞いて顔を動かしたり，発声したりして返答する ・ひもを引っ張ってパッキング機を動かして，居住地域で日頃の学習を実演する
C	○地域での活動で自分の役割を理解して，自ら取り組む ・「ふれあいの里」以外のバス停でも，降りるバス停のアナウンスを聞いて（電光掲示板を見て），降車ボタンを押す	・役割を伝えられると，自分から作業に取り掛かる ・販売時に大きな声で呼び込みをする ・降りるバス停「境谷大橋」のアナウンスを聞いて（電光掲示板を見て），降車ボタンを押す

2. ユニットについて

(1) 児童生徒について

A：本生徒は好奇心旺盛で、「知りたい」「学びたい」という前向きな気持ちで、どんな活動にも積極的に取り組むことができる。自分から指導者に「やってみたい」と伝え、新しい学習内容にも取り組む。また指導者や友達に自分から話しかけることができている。発音が不明瞭な場合もあるが、言葉が伝わらない時は、繰り返し単語を発音したり、大きな声で一音一音話したりするなど、伝えるために自分なりの工夫もみられる。日常的に接することが多い指導者には言い直すことで伝わる人が多いが、かかわりの少ない人には伝わらないことが多く、伝えるのを諦めることもある。また、本生徒は長時間の運動や、集中を必要とする活動が続けると力が入りすぎて疲労が強くなり、活動が続けることが難しくなることがある。外出の経験が少なく、活動量をコントロールできないため、張り切りすぎてすぐに疲れてしまう傾向にある。

そこで、学校からそれほど遠くない居住地域のよく知った場所で同じ活動を繰り返すことで、安定して活動できる力が身につけられるのではないかと考える。このユニットで居住地域にある資源を無理なく活用し、居住地域の人とかかわる中で、自分の思いや用件を伝えていけるようにしていきたい。かかわりの少ない人にも自信を持って自分の思いや用件を伝えられるようになってほしい。日常的にかかわることが少ない人ともコミュニケーションがとれるようになるためには、発声練習や発音練習をするとともに、メモ帳を持ち歩き、カードやメモを見て音読したりそれらを見せたりすることで確実に伝わるが増えると考ええる。

また、本生徒は市バスに乗る経験が少なく、乗ると嬉し過ぎて、大きな声で話し続けてしまうことがある。居住地域にいくために利用する公共交通機関でのマナーも、この時に学習していく。

B：本生徒は車椅子で生活している。楽しい雰囲気の中で音楽などの好きな活動をする場を作ると、手を大きく動かしたり、「う～」と声を出したりする。指導者や友達からの挨拶や言葉かけを手掛かりにして、顔や視線を動かしたり声を出したりして応える。「～したい人？」と聞かれると、手を挙げて意思表示をすることがある。しかし気持ちが乗らない活動のときは、目をつぶって周囲の働きかけに伝えようとしないこともある。

また、本生徒はひもを引っ張ることで号令をかけたり、挨拶をしたり、学部ワークスタディで使う機器を動かしたりすることに取り組んでおり、言葉をかけられると手を上に挙げてスイッチを引っ張ることができる。しかし、緊張して力が入りすぎてしまうこともある。

そこで、本人が緊張しないで動作ができるような場を作るとともに、スイッチを入れたことで周囲からの反応が返ってくるようにしていく。楽しい雰囲気の中で役割を担い褒められることで、意欲的に取り組む姿を増やしたい。

C：本生徒は、身近な友達や指導者のすることを見て、さっと手伝いをする。慣れた指導者に対しては、自分の思いを伝えたり、支援を求めたりすることもできる。しかし自信がないことや、初めてすることは挑戦することを諦めてしまうことがある。またかかわりが少ない人には自分の気持ちや言わなければいけないことを伝えることができないことがある。これは上手くできないのではないのか、伝わらないのではないのかという気持ちがあるためではないかと思われる。褒められると意欲的に取り組み、自己評価をすることで積極的に役割を担える生徒なので、本人が慣れていることでできる状況を作り、大いに褒めることで自分から取り組むことができると考える。

また、本生徒は将来公共交通機関を利用して、一人で移動できることを目指している。「ふれあいの里」では自分から降車ボタンを押すので、将来のことも考えて、いくつかのバス停で降車ボタンを押せるようになってほしい。そこでこのユニットでは市バスを利用するという場面を作り、降車ボタンを押すという課題に取り組んでいく。

居住地域で、得意なことを活かして役割を担うことを積み重ねる中で、自信を持ち、居住地域の人とかかわりながら豊かに過ごしてほしい。

（２）ユニットの設定

本ユニットは、新林、大原野の洛西地域に居住している生徒で構成されたユニットである。居住地域にある公共施設を利用して得意なことで地域の人と交流したり、自分にできることを見つけて自ら役割を担ったりすることを共通の課題としている。

どの生徒も音楽が好きで、絵を描くことが得意な生徒が多い。手先が器用で針仕事で得意な生徒もいる。クラスタディや学年ライフスタディで手話を使った歌を練習してきている生徒も多い。ワークスタディではそれぞれの班で自分の「できること」を発揮して、役割を担う経験を積んできている。

そこで、居住地域にある大型商業施設で行われる西総合作品展で地域の人たちに自分たちの芸術作品を知ってもらうための宣伝を行うとともに、校内で製作したワークスタディの製品の販売を行うことにした。

作品展の宣伝では得意なことを発揮して、パソコンで文字を打ったり、字を書いたり絵を描いたり花を作ったりして、宣伝用の看板や飾りを作る。自分たちで作ったものを宣伝に使用しおそろいの衣装を着用することで、生徒は当日の宣伝活動に意欲的に取り組めるだろう。また、手話を使って校歌を歌うことや、ワークスタディ製品ができる過程の簡単な新聞を作って掲示することで、地域の人に自分たちや西総合支援学校のことを知ってもらえるだろうと考える。

ワークスタディ製品の販売は校内や地域の祭りなどで既に経験している。挨拶やものの受け渡し、言葉でのやりとりなど日常の学習で取り組んでいることを、地域の人たちを相手に実践したい。困ったときに指導者に支援を求めて安心して活動することで、居住地の人ともコミュニケーションをとっていけるようになってほしいと考える。

生徒が得意なことで活動する姿を地域の人たちに知ってもらい、生徒が今後地域で活動する際の手助けや支えがさらに広がるきっかけになることを期待したい。

（３）状況づくりと支援について

＜状況づくり＞

- ・その日の活動を理解しやすいように、生徒が記入したスケジュールカードを黒板に貼る
- ・作品展のイメージを持てるように、右京区総合庁舎で行われた作品展の写真を提示する
- ・ワークスタディ製品の販売をした時の写真も提示して、思い出せるようにする
- ・看板やプラカードの文字を書きやすいように、下書きをしておく
- ・押して切れるように、片手用ハサミを用意しておく
- ・お花紙で花が作りやすいように、補助具を用意しておく
- ・生徒が意欲的に宣伝に取り組めるように、衣装を用意する
- ・実践的な練習ができるように、実物の製品と値段カードを用意する
- ・呼び込みの時に言いやすいように、言い方を書いた文字カードを用意しておく

- ・タオルを袋に入れると音声が出るように、パッキング機にV O C Aを据え付けたり、場面に応じて言葉を入れ替えたりする
- ・自分の活動を客観的に見るために、呼び込みや接客の練習の様子を動画で撮って、テレビで映す

<支援>

- ・モデルとなるように、生徒たちと一緒に指導者も呼び込みや接客の練習をする
- ・雰囲気盛り上げるために、指導者も宣伝や販売の時も一緒に呼び込みをする
- ・支援が求められるように、生徒が困っている時には、「どうしたの？」と言葉をかける
- ・積極的に声を出したり、手を動かしたりするなど進んで役割を担う姿が見られた時には、大いに褒める

3. 本ユニットの実施計画

(1) 授業実施計画

全8時間（本時第3，4時間目）

学習項目	内 容	状況づくり及び支援の要点	時間配当
作品展の宣伝物を作る	<ul style="list-style-type: none"> ○作品展について知る <ul style="list-style-type: none"> ・写真を見て作品展のイメージを持つ ○看板やワークスタディ新聞，プラカード，飾りを作る <ul style="list-style-type: none"> ・模造紙に字や絵を書く（描く） ・パソコンで文字を打って，印刷した文字を貼る ・お花紙や紙テープで飾りを作る ○衣装を作る <ul style="list-style-type: none"> ・蝶ネクタイを作る ○発表会をする <ul style="list-style-type: none"> ・作った看板や新聞，プラカード，飾りを見せて，頑張ったことや工夫したことや発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・右京区総合庁舎で行われた作品展の写真テレビに映す ・文字の見本を提示する ・文字の大きさがわかるように○を書いておく ・打つ文字を紙に書いて提示する ・花作り器の使い方の見本を提示する ・写真や文字で手順書を提示する ・生徒が使いやすいハサミの片手押し用，左手用を用意する ・布を同じ大きさに切っておく ・縫う箇所に印をつけておく ・どの活動を頑張ったか写真カードで選択できるようにする ・言葉が不明瞭な時は「もう一度言ってください」と言葉かけをする 	6時間
西 総合 マー ト の 運 営 の 練 習 を する	<ul style="list-style-type: none"> ○西総合マー ト の 運 営 に つ い て 知 る <ul style="list-style-type: none"> ・写真を見て，その時の活動を思い出す ○販売する製品について知る <ul style="list-style-type: none"> ・自分の所属するワークスタディの製品を友達に紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのワークスタディ製品販売の時の写真をテレビに映す ・V O C A に 言 語 を 入 れ て お く 	

	<p>○接客の練習をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や呼び込みの練習をする ・販売の練習をする <p>○作品展の呼び込みと手話歌の練習をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品展の呼び込みをすることを知り、練習をする ・ビデオを見て、手話の練習をする <p>○実演の練習をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひもを引っ張って、パッキングをする <p>○反省会をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画で自分の接客を見て、頑張ったことを発表する ・次回の宣伝・販売の役割を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者が客役になる ・聞かれたことがわからなかった時のために「もう一度言ってください」などの文字カードを準備しておく ・呼び込みのセリフを書いたカードを用意する ・別の場面でも練習しておく ・パッキング機が上手く動くように、ひもの位置や長さを調節する ・接客の練習の様子を動画で撮っておく ・写真カードを使って役割を伝える 	
西 総合マート を運営する	<p>○市バスに乗って会場に行く</p> <p>○役割を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真カードを見て、自分の役割を確認する <p>○挨拶や呼び込みをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな声で呼び込みをする ・手話をしながら校歌を歌う <p>○製品の販売をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品の金額を言う <ul style="list-style-type: none"> ・代金をもらい、おつりと商品を渡す <p>○製品の袋詰めの実演をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひもを引っ張って、パッキングをする <p>○市バスに乗って学校に帰る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・車内では静かにすることを伝えておく ・降車するバス停を伝えておく ・校内での練習の様子を写真カードにしておく ・一緒に呼び込みをして、雰囲気を盛り上げる ・金額を書いたカードを用意しておく ・複数の商品を買ってもらった時は、ホワイトボードに合計の金額を書く ・お金やおつりの管理は指導者が行う ・「もう一度言ってください」などの文字カードを準備しておく ・V O C Aに威勢の良い言葉を入れて、タオルが袋に入ったときに流れるようにしておく ・車内では静かにすることを伝えておく ・降車するバス停を伝えておく 	2時間

(2) 指導計画 (個別)

児童 生徒	行動目標 ※本時	できる状況づくりと支援
A	<p>◇製品が売れた時にカードを読んで金額を伝え、伝わらない時には、カードを見せる</p> <p>①カードを読んで金額を伝え、カードを見せる練習をする ※(3, 4時間目/6時間)</p> <p>②製品が売れた時にカードを読んで金額を伝え、伝わらない時には、カードを見せる (1時間)</p> <p>◇バスを利用する時に、車内では静かにする</p> <p>①バスを利用する時に、指導者から言葉かけをされると静かにする (0.5時間)</p> <p>②バスを利用する時に、車内では静かにする (0.5時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・金額を書いたカードを準備する ・複数の商品を買ってもらった時は、ホワイトボードに合計の金額を書く ・朝学習の時間にも金額を読む練習をしておく ・乗車前に静かにするように言葉をかける ・大きな声を出すときは、周囲に迷惑がかかることを伝える
B	<p>◇製品が売れた時や実演をする時に、顔を動かしたり、発声したりして返答する</p> <p>①練習をする時に、指導者から言葉をかけられると、顔を動かしたり、発声したりして返答する ※(3, 4時間目/6時間)</p> <p>②製品が売れた時や実演をする時に、顔を動かしたり、発声したりして返答する (1時間)</p> <p>◇ひもを引っ張ってパッキング機を動かして、居住地域で日頃の学習を実演する</p> <p>①指導者や友達の言葉かけでひもを引っ張ってパッキング機を動かして、実演の練習をする ※(3, 4時間目/6時間)</p> <p>②ひもを引っ張ってパッキング機を動かして、居住地域で日頃の学習を実演する (1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今はどういう場面で何をするのかを耳元で言う ・返答できていない時は、手を握ったり肩を叩いたりして、言葉かけをする ・製品が売れた時は、「売れたね」「やった」などと言葉をかけ、製品が売れたことを伝える ・「ワークスタディの時のかっこいい姿を見せてね」と言葉をかける ・ひもを引っ張るまでに時間がかかる時は、指導者が一緒に手添えで引っ張って、引っ張る役割をすることを再度伝える

C	◇役割を伝えられると、自分から作業に取り掛かる ①看板、新聞、プラカードや飾り作りの時、自分から作業に取り掛かる ※(3, 4時間目／6時間) ②当日の販売の時に、自分から役割をする場所に行く (2時間)	・活動始める前に、作り方や必要な道具の場所を伝えておく ・活動始める前に「わからないことがあるときは言ってください」と伝えておく ・当日の役割(前半、後半)、場所を伝えておく
	◇販売時に大きな声で呼び込みをする ①大きな声で呼び込みの練習をする ※(3, 4時間目／6時間) ②販売時に大きな声で呼び込みをする (1時間)	・指導者が見本を提示する ・自分の声の大きさがわかるようにタブレット端末で撮影し、テレビに映す
	◇降りるバス停「境谷大橋」のアナウンスを聞いて(電光掲示板を見て)、降車ボタンを押す (1時間)	・乗車前に降車するバス停を伝え、降車するバス停の写真を渡す ・電光掲示板の写真を用意する

4. 本時の授業について

(1) 本時の展開

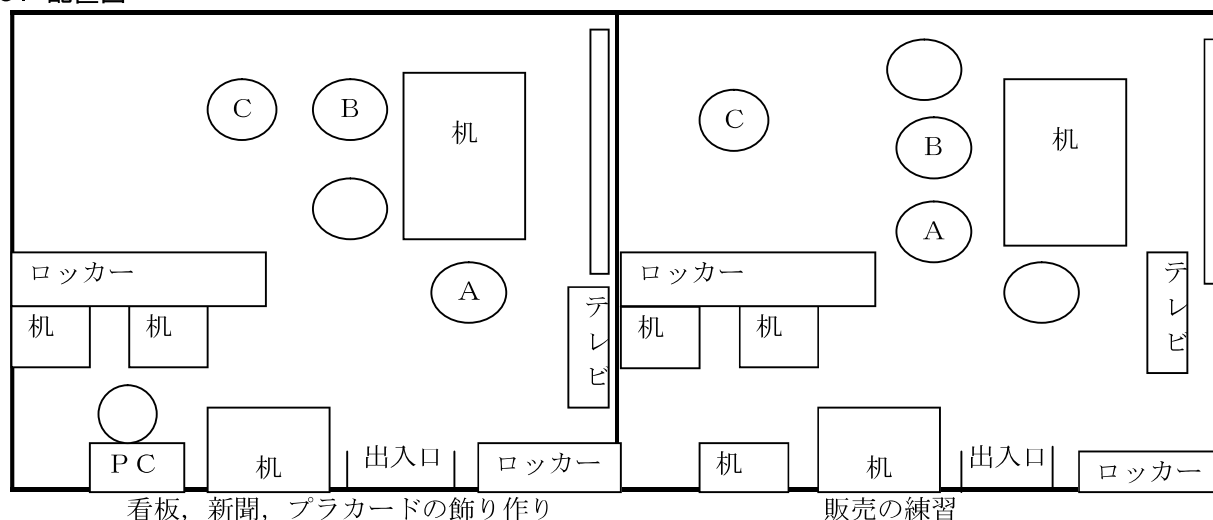
学習内容(項目)	児童生徒の活動	指導者の活動／支援
始めの会 ・挨拶 ・本時の内容の確認	○始めの会をする ・「起立、気を付け、礼、お願いします」と号令をする (A) ・本時の活動(飾り作り、新聞作り、呼び込みと販売の練習)や役割を確認する	・はっきり言うように言葉かけをする ・写真カード、文字カードで前半の活動、後半の活動を提示する ・それぞれの役割がわかるように、活動写真の下に名前を書く ・活動の見本を見せる
看板、新聞、プラカードの飾り作り ・プリンタの貸出 ・ワークスタディ新聞の文字打込み、印刷 ・花作り ・輪飾り作り ・絵を描く	○役割に従って、活動に取り組む ・第二職員室に行き、言葉で伝わらないときはカードを見せてプリンタを借りる (A) ・見本を見て、紹介文を打ち込む ・正確に打っているか自分で読みなおして確認し、印刷をする ・お花紙を折る道具を使って、花を作る (A) ・押して切るはさみを使って輪飾り用の紙を切る (B) ・プラカード用の絵を描く (C)	・「プリンタかしてください」と記入したカードを準備しておく ・見本の紹介文を準備する ・事前に、困ったときは伝えるように言葉かけをしておく ・本人の力が入るようにはさみを設置して言葉をかける ・文字や絵をどのように入れたいのかを聞いて話し合う
販売の練習 ・呼び込み	・「いらっしゃいませ」と大きな声で言う (A, C)	・指導者が見本を提示する

・販売	<ul style="list-style-type: none"> ・客役をする (B) ・タブレット端末で撮影した呼び込みの様子を見て振り返る ・声の大きさや発音に気をつけて、「いらっしゃいませ」と言う (A, C) 	<ul style="list-style-type: none"> ・客役の支援をする ・確認するために呼び込みの様子をタブレット端末で撮影しておく ・大きな声を出しているときは、ほめる
・ワークスタディ製品袋詰めの実演	<ul style="list-style-type: none"> ・渡された商品の金額を言葉で伝え、金額が書かれたカードを見せる (A) ・客役をする (B) ・商品を渡す ・「ありがとうございました」と言う (C) 	<ul style="list-style-type: none"> ・金額をカードに書く ・客役の支援をする
展示の宣伝の練習	<ul style="list-style-type: none"> ・ひもを引っ張ってパッキング機器を動かす (B) ・客役をし、Bに言葉をかける (A, C) ・校歌を歌いながら、手話をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・「引っ張ってください」と言葉をかける ・「何ができるのかな？」などと一緒に言葉をかける ・手話の動画をテレビで提示する
次回の活動内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の活動内容を聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容を伝える

(2) 本時の評価

A	・カードを読んで金額を伝え、カードを見せられたか
B	<ul style="list-style-type: none"> ・練習時に友達や指導者から言葉をかけられると、顔を動かしたり、発声したりして返答したか ・指導者や友達の言葉かけでひもを引っ張ってパッキング機器を動かして、実演できたか
C	<ul style="list-style-type: none"> ・看板や新聞、プラカード作りのとき、自分から作業に取り掛かることができたか ・大きな声で呼び込みの練習ができたか

5. 配置図



6. 授業の評価

(自：自己評価 他：他者評価 A：適切 B：どちらかといえば適切 C：どちらかといえば不適切 D：不適切)

授業評価の観点	自	他	備 考
適切なできる状況づくりがなされていたか			
・教材はどうだったか			
・場の構造化，物品の配置はどうか			
・支援者の配置や役割分担はどうか			
支援のあり方はどうだったか			
・支援者の話しかけや指示はどうだったか			
・教材の提示の仕方やモデルの示し方はどうだったか			
・子どもの様子の把握とそれに対する対応はどうだったか			
その他，授業者設定項目			
・生徒の主体性や活動への意欲を引き出すことができていたか			